

## あとがき

平成 20 年の今年も過ぎようとしている。コア研究室の設備も地域 COE への移転が終わり、研究員ももうすぐ居なくなる。蟬の抜け殻と化しつつあるコア研究室をながめながら、これでよいのだと思う。

平成 15 年に基本計画書を提出し、採択されて、コア研究室の整備にかかったのが丁度 5 年前の年末であった。床の工事、電源の工事、導入予定機器のレイアウトを終えて平成 15 年度予算で FESEM 等を購入し、スタートした。平成 16 年の 4 月初めには雇用研究員 7 名を採用して、事業が本格的に始まった。

5 年間の実用化・商品化の成果に点数を付けるとすると何点くらいになるのか。地域 COE の出来ばえは何点くらいなのか。当人は 70 点くらいと感じているが、点数はそれぞれの基準によって異なるので、40 点と思う人、90 点と思う人がいても不思議ではない。

真価が問われるのは 10 年後である。地域企業がどれだけ活性化しているのか。新産業がどれだけ生まれているのか。使い走り卒論をまとめていた学生が大きく貢献しているかも知れない。あんな研究をやっていたと思っていた研究が成果をあげているかも知れない。そういう楽しみはあるものの、実用化・商品化まで行ったもの、その近くまで来ているものに期待するのが現実的であろう。

この 5 年間多くの人たちのお世話になった。JST、事業総括、研究統括、新技術エージェント、京都府、研究者、参画企業の方々はもちろんのこと、他地域の人たち、業者の方たちにも色々とお世話になった。本当はお世辞のひとつ位は言って筆を置くべきなのだろう。言わないのか言えないのかどっちでもいいけれども、地域 COE の発展を切に願うしだいである。